

## 一人ひとりが相手の気持ちになつて

名古屋市立明豊中学校

一年

たなか ななは  
田中 七那葉



「やめて。」

私の心の中にはずっとあったけど、口に出せなかった言葉。今でもずっと覚えていきます。

私は小学生のときに友達とトラブルがあり、仲間外れや無視をされたことがあります。長い間続いていて辛かったけれど、誰にも言えずにいて、一度は「死にたい。」と思ったこともありません。

私には、毎日一緒に帰っていた友達がいました。

「一緒に帰ろ。」

いつものように私が誘つて、

「無理。」

と言われました。初めは用事があるのかと思っ  
ていましたが、別の日に私をさけていることに  
気付きました。また別の日には他の友達とこちら  
らを見て「そこを話していたり、また別の日には  
私が他の友達と帰ろうとするよ、わざとその  
友達を呼び止めて私と帰らせないようにつて  
きました。

「やめて。」「私何かした?」「死にたい。」心の  
中でそう思うようになりました。

ある日、私の様子を見てお母さんが、

「何かあった?」

と聞いてきました。涙が止まりませんでした。

お母さんに今までのことを全部話しました。

その後、先生にも聞いてもらい、その友達との話し合いの場を作ってもらいました。理由を聞くと、

「先生に好かれていたから。」

「好きな人が同じだから。」

など、それだけでないかもしれないけど、とても辛かったです。話し合いが終わると「死にたい。」という気持ちは違つて感じました。

他の友達が

「今度何かあったら助けるよ。」

と言ってくれました。そして、

「いつでも味方だよ。」

そう言ってくれたお母さんの言葉があったのが、最大の理由です。

私の通っている明豊中学校では、以前いじめなどの悲しい出来事がありました。それから、明豊中のつながりの歌『地球のダイヤモンド』ができました。みんな地球の宝物で、光の輝くダイヤモンドであるという意味がこめられています。歌の中「『生きるのが辛いときは愛す

る誰か思い出して』という歌詞があります。

私も「死にたい。」と思ったことはあったけれど、いつでも味方になってくれる大好きな家族や友達がいたからこそ、辛いときを乗り越え、今の私がいるんだと思います。

最近ではコロナウイルスが流行してニュースで『コロナ差別』という言葉が聞きました。人それぞれ、自分を必要としてくれる人や大切にしてくれる人が絶対にいます。たとえ辛くて死にたいと思っても、自ら命を絶つことは、絶対にしてはいけません。誰にでも生きる価値はあり、理由もあります。

私は辛い経験をしたけど、そこから学んだこともたくさんあります。いじめる側は少しの気持ちだったかもしれないけど、いじめられた側は「死にたい。」とまで深刻に考えてしまうことがあります。難しいことだけれど、自分がされたらどう思うか、言われたらどう感じるか、私達一人ひとりが常に相手の気持ちになつて行動や発言をすることが、犯罪や非行を減らす、明るい社会への第一歩になるのではないかと思います。